マイトーク MY TALK

発　行：中央大学放送研究会ＯＢ会（会長／砂岡茂明）
住　所：〒192-0351 東京都八王子市東中野742-1 中央大学放送研究会気付
発行日：平成23年6月

第13号

**東日本大震災により、被災された皆様方に心より
お見舞い申し上げますと共に、お亡くなりになりました
方々に対しまして心よりご冥福をお祈り致します。**

第七回ＯＢ会総会を開催

平成二十二年（二〇一〇年）七月三十一日（土）午後一時三十分から、品川プリンスホテル十二階「彦根」で第七回ＯＢ会総会が行われました。来賓二名、ＯＢ七十五名、現役十名が出席して、荒井藤樹副会長（十四期）の司会で進行しました。

最初に、砂岡茂明会長（十二期）から新役員の紹介（別表参照）とＯＢ会の現状（高齢化、財政逼迫化等）についての話があり、引き続き乾杯に移りました。

来賓のご挨拶では、学友会総務部長森正明文学部教授から、最近の現役は昼休みの発声練習が静かで些か寂しい、ＯＢからもハッパをかけて欲しい、来年は学友会百周年にあたりいろいろ企画している、近く、一二五周年の企画で早稲田大学野球部との交流戦が行われるなどの報告があり、現役会長の井上彰法学部教授からは、学生のサークル活動にはＯＢの指導が欠かせないので、絶大な協力をお願いしたいとのお話がありました。

ＯＢ会を代表して、今年卒業五十年にあたる前会長の藤原尚武アカデミア部会長による、アカデミア部会活動紹介や若いＯＢメンバーの紹介などがありました。また、現役の善方歩惟委員長から、総会開催のお祝いと今後も現役は頑張るとの決意表明があり、現役作成の大学紹介ビデオ「アド街っく大学」が放映されました

引き続き、前田紘子副会長（十三期）の司会により懇親会に移りました。放研創立時代の二期のメンバー五名によるトーク、口蹄疫渦中の宮崎から参加した七期の中原さん、札幌から参加の堂前さん、新ＯＢの小田島さんの紹介がありました。また、今回の総会に絵画等を出展して戴いた方々の紹介を行いました。懇親会は、卒業以来数十年ぶりに会うメンバーなどもおり各テーブルで話が盛り上がり、閉会を惜しむ声も聞かれましたが、次回の再会を約束して、恒例の皆で肩を組んでの「惜別の歌」の合唱で幕を閉じました。この後、同期を中心に二次会、三次会が盛大に行われたようです。

今回の総会では、初めての試みとして、有志の会員のご協力で「趣味の作品展」を開催しました。絵画、写真、陶芸、彫刻、書、能面、パッチワーク、絵本と様々な作品が展示され、総会を盛り上げていました。ありがとうございました。（出展作品一覧は別表のとおりです。）

中央大学放送研究会　第7回OB会総会報告

会則の一部改正【主な改正点】

①役員の任期　「任期は3年」としていたが、「原則として総会から次期総会まで」とした。

②総会開催　「原則として3年に一度」としていたが、「周年行事と同時開催できる」旨のただし書きを挿入した。

③会　　計　会計年度については、「4月1日から翌3月31日まで」の単年度会計としていたが、「総会開催年の4月1日から次期総会開催年の3月31日まで」と変更する。また、会計報告は「文書をもって報告」としていたのを、「機関誌マイトークに掲載する」に改正した。

会計報告（平成19年4月～平成22年3月）

【収入の部】		【支出の部】	
会費	1,020,640	会議費	277,409
総会会費	1,465,000	総会費	1,992,473
125周年寄付金	248,160	慶弔費	86,920
雑収入	3,194	事務費	7,840
前期繰越金	938,872	機関誌・会員名簿制作・発送費	531,002
		通信費	38,894
		125周年寄付金（第2回）	200,000
		125周年寄付金（第3回）	200,000
		次期繰越金	341,328
合計	3,675,866	合計	3,675,866

役員改選（敬省略）

役職	期	氏名	備考
顧問		加賀美鐵雄	前放研会長
会長	12期	砂岡茂明	再任
副会長	13期	前田紘子	再任
副会長	14期	長谷部勲	
副会長	15期	齋藤剛	幹事長兼任
副会長	17期	谷井健	
会計監査人	12期	若尾英樹	
会計監査人	14期	浅見一策	再任
幹事長	15期	齋藤剛	再任
副幹事長	17期	北島宏幸	
副幹事長	17期	川口稔	再任
会計	13期	佐藤猛志	
会計	19期	竹間文子	
現役	60期	善方歩惟	委員長
現役	61期	池田斉央	副委員長
アカデミア部　会長	8期	藤原尚武	再任
副部会長	11期	有松幹夫	再任
副部会長	14期	荒井藤樹	
ゴルフ部　会長	11期	河合昭次郎	再任
スキー部　会長	12期	高橋俊次	再任

（2期～7期）　平成22年7月品川プリンスホテルに於いて

（8期～12期）

（13期～20期）

（51期～現役）

新役員紹介

作品鑑賞

受付風景

現役作成ビデオの放映

料理に挑戦

歓談

放研創生期の２期

懇親会

川鍋さん（13期）

蛭田さん（13期）

懇親会司会は前田さん(13期)

岡村さん（5期）

黒沢さん（6期）

藤原さん（8期）

森学友会総務部長

井上放研会長

堂前さん（15期）

小山さん（12期）

志村さん（12期）

佐久間さん（6期）

中原さん（7期）

米山さん（12期）

新OB・小田島さん(58期)

現役委員長・善方さん

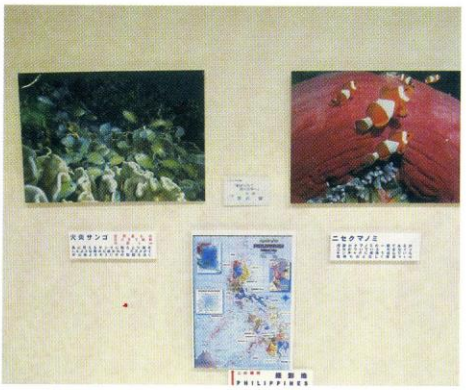
↑大合唱

↓最後は肩を組んで

惜別の歌

「趣味の作品展」一覧

期	名　前	ジャンル	題　　名
5	岡村　参次	水彩画	「歴史的建造物」
6	黒沢　　健	写真・カメラ	
6	佐久間良平	陶器	①「茶碗」2点　②「ぐい飲み」2点
12	小山　紀一	水彩画	①かやぶきの里～京都・美山町～　②法起寺三重塔～奈良・斑鳩町～
12	米山　文雄	彫刻	「素彫り…木っ端の中の仏たち」
12	志村　弘昭	パステル画・アクリル画	①「総天然色七福神」　②「信州松川の夜明け」
12	河口　友彦	油絵	①ヴェネチア・リアルト橋からの眺望　②デンマークの農家
13	川鍋　光利	面	①小面　②大笑い
13	水上　員子	書	「日々是好日」
13	蛭田　峰代	パッチワーク	「古布花遊」
15	堂前　綾子	絵本	「エッセー・実話絵本・イラスト入りエッセー」「布の絵本」



放研60年の軌跡

（昭和）	
27年 7月	中央大学放送研究会発足。
28年 2月	学友会に公認される。
12月	機関誌「マイク」創刊号発刊。
29年 8月	会室が中庭の木造建物内に移転。
30年 8月	志賀高原で第1回目の合宿。
31年10月	リズムアワー開始（週1回）
32年 6月	**創立5周年記念発表会（新宿文化会館）**
33年 5月	OB会が発足
34年 4月	大学新館内に音楽鑑賞室が完成。
35年10月	大放連録音構成コンクール3位入賞。
36年 9月	初のステレオ番組を制作。
37年 6月	**創立10周年記念番組発表会と式典（西式健康会館）**
39年 6月	新潟大地震の発生日と翌日を取材し録音構成を制作。
40年 1月	箱根駅伝を実況録音（中央大学の優勝）
42年 7月	**創立15周年**
44年 4月	学生会館ロックアウト。
45年11月	番組発表会を開催。録音はすべて貸しスタジオで。
47年 7月	**創立20周年パーティー開催（銀座第一ホテル）**
48年 7月	地下スタジオ実力解放。再度ロックアウト。
49年 6月	スタジオ解放。1週間かけて修理。
52年 7月	**創立25周年記念パーティー開催（中央大学多摩キャンパス）**
55年 6月	多摩キャンパススタジオ完成記念パーティー（多摩教職員食堂）
56年 5月	慶大放研とDJ交歓会。
57年 6月	**創立30周年記念パーティー開催（京王プラザホテル）**
59年 6月	アニメ研の作品にアテレコ。アニメ映画祭で発表。
62年 7月	**創立35周年記念パーティー開催（駿河台記念館）**
（平成）	
3年11月	1年半ぶりに番組発表会を開催。（駿河台記念館）
4年11月	**創立40周年記念パーティーを開催（駿河台記念館）** 第2期OB会発足。水上先生OB会会長に就任。
10年 7月	**創立45周年記念パーティーを開催（京王プラザホテル）**
11年 7月	水上会長常任理事退任お祝い会。（駿河台記念館）
12年 9月	水上OB会会長夫妻逝去。
13年 7月	水上OB会会長追悼会（第一ホテル東京）
14年 8月	**創立50周年記念パーティーを開催（京王プラザホテル）**
16年 7月	第5回OB総会（品川プリンスホテル）
19年 8月	**創立55周年記念パーティーを開催（ANAホテル）**
22年 7月	第7回OB総会（品川プリンスホテル）
24年	創立60周年予定

放研創立60周年のご案内

昭和27年（1952年）7月に放研が誕生し、来年（平成24年）で創立60年を迎えます。その間、同じサークルで放送文化に情熱を燃やした仲間は1,000名余りになります。

現役とOB会では、来年夏を目途に記念行事を計画しています。60周年に相応しい事業としたいと考えていますので、記念企画等の提案・ご意見などを幹事長までお寄せ下さい。

なお、60年の軌跡を左表にまとめてみました。

昭和39年（1964年）白門祭

昭和43年（1968年）白門祭

平成14年（2002年）50周年表彰式にて（現役学生）

三宅島観光

佐久間　良平（六期）

総会終了後、三宅島ツアーの六人（二期・桃川龍一、六期・大沢龍樹、黒沢健、林宏祐、佐久間良平、七期・佐藤明夫）は、船の出港までたっぷり時間があるので、ホテル内の水族館「エプソン品川アクアスタジアム」見物。海底トンネルを通ったり、ぶらぶら眺めてから、イルカ・ショウを楽しんだ。

七時過ぎ、竹芝桟橋の東海汽船3Fの居酒屋・兼蔵に腰を下ろした。冷奴・お新香・ごぼうの唐揚げで、焼酎を1本空けたのである。程無く乗船し、十時二十分に「かめりあ丸」は定時に出港。

翌朝四時に目が覚めた。デッキに出て暗い空と海を眺めた。四時半頃薄明りの中に三宅島の東海岸の道路の街灯が見え、灯台（地図にサタドー灯台と書いてあった）が点滅していた。五時、明るくなった三池港に到着、三宅島交通のジャンボタクシーが待っていた。五時二十分、黒沢氏予約の朝食会場のホテル海楽（阿古地区）に到着。バイキングの朝食。六時三十分、メガネ岩（阿古地区）。溶岩流が波で浸食されて出来た奇岩。六時五十分。昭和五十八年の噴火の溶岩で埋没した阿古小・中学校（阿古地区）を火山体験遊歩道を歩きながら見た。火山・噴火・溶岩の凄さ！七時五十分、島役所跡（神着（かみつき）地区）。一五一六年（天文三年）建造の木造建築。篤姫が江戸に向かう途中、大久保浜に漂着した時に植えられたという蘇鉄の記念樹があった。八時十分、故浅沼稲次郎生家（神着地区）。昭和三十五年十月十二日、浅沼社会党委員長が日比谷公会堂で刺殺されたテレビ中継を、盛岡で同期の金子保仁君（当時岩手放送のアナウンサー）のアパートで一緒に見ていたことを思い出した。九時五十分、アカコッコ館（坪田地区）。年配者は入場料タダ。アカコッコは飛んでこなかった。十一時二十五分、帰路につくため三宅島空港（坪田高濃度地区）へ。ＡＮＡ一八五便一三時〇〇分発は、火山ガス発生の為欠航となる。黒沢氏がキャンセルの手続きをした。そこで帰りを船便手配に切り換え、近くの三池港の東海汽船の切符売り場に行ったが、船の到着まで時間があるらしく、開業していなかった。十二時、民宿で昼食をと、運転手が探してくれたが、夏休みで断られて、食料店でおにぎり一個とカキ揚げ一個でおしまい。これにて周囲三十八kmの三宅島観光は終了した。後から聞いたことですが、三宅島のクサヤは名産で美味だそうです。一時十五分、三池港の待合室へ、東海汽船二等椅子席八二三〇円。二時二十分、今朝乗って来たかめりあ丸に乗船し、三池港出港。一路竹芝へ。夜になると横浜港の方向で、花火が上がっているのが見える。豆粒程の大きさであったが、かなりの数が光っていた。八時十五分、竹芝桟橋到着。解散。

錦秋の鳴子に行って来ました

佐久間　良平（六期）

桃川先輩より『紅葉の鳴子峡の、景観を見てみたい』との好企画を受けた。

平成二十二年十一月四日（木）晴時々曇

大沢・林両君と仙台駅で黒沢・佐久間が合流し十一時五十五分、各駅停車の電車は鳴子温泉駅に到着した。予約のタクシーが駅前に到着し、「間欠泉」に向かった。鳴子は紅・黄葉の色彩が盛りであった。鳴子ダムを左に見て通り上流の道路を左の間道に入ると、「釣り橋」があり橋の上に車を止めた。橋の上から運ちゃん推薦の紅葉のパノラマを楽しんだ。

「間欠泉」。十分程待っていると、勢い良く温泉が噴水の如く吹き出した。何回も見ているが、この健気無さ?が何とも気に入っている。それと、噴射している時の音が独特の景気をつけている。

「尿前（しとまえ）の関」。松尾芭蕉の「奥の細道」（岩波文庫）には『此路（このみち）旅人稀なる所なれば、関守にあやしめられて、漸（ようよう）として関をこす』とあり、芭蕉主従は関所を超すのに苦労したようであった。関所の前に柵があり案内板があったが、建物跡は更地になっており、奥に石碑が立っているのみである。

「鳴子峡の深沢橋の上」。周りの山々・渓谷は錦秋

の彩りの最盛期で、紅・真紅・赤・橙・黄・薄緑の総天然色（当たり前）で、丁度太陽が雲から現れたから秋色が息をのむ美観を見せたのである。渓谷を下に見ながら見晴し台まで歩いた。遥か下方の谷の遊歩道を観光客が散策していた。黒沢幹事がレストハウスで「甘味噌をつけたこんにゃく」を4本仕入れて来た。こんにゃくの田楽を齧りながら景色に見とれた。それにしても、これほど見事な本当に色彩豊かな秋の彩りのピーク時に、どんぴしゃのタイミングで来られたのは全く幸運であった。

現在の間欠泉

当時の間欠泉

今宵の宿の「鳴子観光ホテル」に到着。小生の庭の柿（百匁柿）を披露した。甘柿ですが味はたいしたことがなく、見た目だけは見事であります。のんびり寛いでから、温泉に行く。白濁の温泉で、これぞ温泉らしい温泉である。天然の贈物にゆっくりとつかった。

「広間で夕餉の席」。料理は年配者に配慮したようでした。見渡すと年寄りだけ。それでも仙台色として、網焼きは牛タンでした。ビールの後にみやぎの純米酒の味比べセットを頼んだ。三個のぐいのみに一の蔵、荒雄・もりいずみの三種類が入っていた。ちょっと甘口・ちょっと辛口・こくのある辛口をちびりちびりとあれこれ蘊蓄（うんちく）を傾けながら味わった。

東北取材旅行（昭和36年）

平成二十二年十一月五日（金）晴時々曇

五時半、昨夕気が付かなかった露天風呂に入った。白い粘土状の温泉の成分が、お湯の桶や湯船の底に付いていて、これぞ本物の温泉であることを示していた。勿論いいお湯加減だった。

朝食は昨夜と同じ広間。和食である。珍しかったのは豆腐蒲鉾でカボチャと椎茸を鉄鍋で焼いて食べた。藁苞入の納豆や温泉卵も並んでいた。全員がパクパクと全部平らげた。九時過ぎにホテルを出て、ブラブラ・ダラダラと坂を下り土産物店を見て駅に着いた。駅の足湯で、おばさん三人が足を入れていた。

昼食は駅ビル3Fのすし横丁の黒沢幹事推薦の「かき鮮海風土」に入った。先ず、スーパードライで喉を潤し、大ぶりな殻に入った生カキ3ピース（志津川産1個・奥松島産2個）にレモンともみじおろしが添えてある。とにかく超美味！ 寿司はランチタイムの超サービスの十貫？ 値段の安さと質・量とも一二〇％の満足度でありました。

黒沢氏が、ウチで美味しいコーヒーを飲もうとのことで、四人は駅前市場を通って、黒沢防災本社へ。忙しい中を、黒沢夫人がいれてくれた「アラスカのコーヒー」を美味しく頂戴した。それから「はやて18」で大沢・林両君は東京に帰って行った。かくして錦秋の鳴子・美食の集いは終了した。

（発案者である桃川先輩は、怪我のため何とも残念ながら参加を取り止めました。）

仙台で被災した佐久間さんにお伺いしました。

――このたびは東日本大震災で被災されたそうでこころからお見舞い申し上げます。地震発生時はいかがでしたか。

（佐久間）突然テレビで緊急地震速報がでたと同時に猛烈な振動を感じました。本箱の戸が開き、並べてあったCD、MD、本が音を立てて落下しました。

――被害状況をお聞かせ下さい。

（佐久間）すぐに停電になり頼りはラジオだけでした。地震直後は、水道も出たのでできるだけ汲み置きをしましたが、間もなく断水し、四日目から給水車がくるまで汲み置きで凌ぎました。水道の復旧は十日目の二十一日になりました。ガスは地震と同時に止まり、復旧は、二十九日でした。電気は三日目の午後につき、テレビをつけた途端、津波の映像のすさまじさに愕然とし、余りの悲惨さに涙がこぼれました。電話は三日目の朝、同期の林君からの電話で通じることがわかりました。

――被災して思ったことをお聞かせ下さい。

（佐久間）我が家は仙台北部の丘陵地にあり地盤も固く地震の影響も少なく、津波からも遠くにありました。揺れは激しく余震も多く恐い思いもしましたが、仕事や放研OBメンバーで訪れた三陸海岸沿いの被災者にはかける言葉もありません。この震災で亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに一日も早い復興をお祈りしています。また、災害に備えて最低限の備蓄（米、灯油、非常食、懐中電灯、ラジオ、電池など）を常日頃心がけておくことをお勧めします。

――ありがとうございました。

放研OB十三期生　恒例の旅行

佐藤猛志（十三期）

（因田・川鍋・越・佐藤・乗安・渡辺）

私達、十三期生は、平成二十二年五月十三日（木）から十五日（土）にかけて二泊三日で西伊豆の淡島と、富士山の麓、長泉へ親睦旅行を行いました。当初は女性群も参加の予定でしたが、葬式や急用のため、結果は男性六人となりました。

三島駅に集合し、越幹事のはからいで㈱淡島ホテルの送迎バスで市内観光を行いました。うなぎ屋でおいしい昼食の後、柿田川湧水、沼津御用邸を見学し、夕方早めに「淡島ホテル」に入りました。当ホテルは西伊豆の淡島に建つ会員制リゾートホテルで、仏国のミッテランやシラク大統領も宿泊した高級ホテルで、越さんのご尽力で私達はリッチな気分を味わうことができました。

渡船場からホテル専用船で六～七分で「淡島ホテル」の桟橋に着きました。降り立つと大理石の建物が、まるで私達を南仏のリゾートに運んでくれたような錯覚に陥いり、私などまるでアラン・ドロン気取りでした。

到着後、島内を四十分程かけて一周し、その後「淡島温泉」の露天風呂に入りました。

波がすぐそばまで押し寄せ、船が横切っていきます。屋内の浴槽の壁には「みかんの花咲く丘」の歌詞が掲げられ、「…一緒に眺めたあの島よ、今日も一人で見ていると、やさしい母さん想われる」の詩には、思わず涙がこぼれました。

夕方七時から特別室で、フレンチイタリアンの夕食をとりました。ビール大ジョッキ五杯も飲む豪傑もおり、宴が終わったのは九時をまわっていました。

翌日は淡島周遊クルーズを大型クルーザーで行い、まさに映画の一シーンの中にいるようでした。

ホテルを出発後、源頼朝が平家追討の祈願をした三嶋大社に参拝し、昼過ぎ「ホテル長泉ガーデン」に到着しました。長泉町はTOTOなど多くの企業の工場が進出し、税収が豊かでリッチな町です。JR御殿場線の「長泉なめり駅」から愛鷹山の方角に向かった元長窪の地に「ホテル長泉ガーデン」があります。ホテル周辺は杉の木立に囲まれ、森林浴がすすめられています。ゴルフ場も三ヶ所あります。淡島ホテルの華やかさとは違い、しっとりとした落ち着きの中での夜となり、六十代後半の私達には、人生を振り返るよい時間と場所となりました。

最終三日目は、近くの駿河平自然公園やクレマチスの丘を見学しました。三時過ぎ、三島駅に到着し、ここで解散しました。女性がいらっしゃらなかったので、少し、寂しかったのですが、自分を見直すには、大変良い機会でした。来年は伊勢・長島温泉周辺ですので、また皆様に楽しい報告ができると思います。

定年間近の私の思い

大悟法安路（十八期）

大学を出て四十年をすでに過ぎた。これまで不定期ながら同期会を細々と続けてきた。数年に一回の時もあれば、年に三回集まることもある。十八期の名簿には十七名が名を連ねるが、消息不明や十年以上音信無しや、不幸にして他界した方もいる。多くて八名、少ない時は四名だったりする。旅行は七年前の熱海が最初で最後。二年前に古河の友人宅まで筍狩りには行ったが、大体は都心の居酒屋。思えば少々切ない気もする。

われわれ十八期は「団塊の世代」（一九四七～一九四九年の約八〇〇万人。大学進学率は約一五％とか）と呼ばれた一九四七年生まれ。大学入試はもとより、社会人になっても職場や仕事の中、嫌でも競争せざるを得ない環境の中で生きてきた。やりたい仕事、目標の実現のためには、意識せずとも周りを追い抜き追い越さねばならぬ競争世代である。

早稲田の斉藤祐樹投手が「持っているのは仲間」と宣言した。僕ら競争厳しい世代に限らず、どんな人にとっても大切であり、持つべきものは「心許せる友人」なのではないかと感じている。社会や職場。確かに頼りになる上司や先輩や部下も居る。もちろん同期の何人かも居る。とはいえ、時が変わり立場が変わり、良きライバルではあっても、あるときは出世競争コンペチターになってしまうことも多々経験してきた。意識はせずとも、互いに利害が介在しているからなのであろう。よくよく考えてみると職場に親友などいないことにも気が付く。

では学生時代は？サークルは？もちろん好きな奴も居れば嫌いな奴も居た。学生運動賑やかな僕らの学生時代にはバリバリの左翼も居たし、隠れシンパや右翼も居た。もちろん親友ばかりではないが心許せる多くの仲間がいた。時を経て思想を超えて、久しぶりに会っても、なぜか当時と変わらず笑って語り合える楽しい友人がいる。当時は怖かったけれど今では優しい先輩の方々が居られるし、気遣いしてくれる後輩も居る。そこに利害関係はなく、互いに仲間という意識だけがあるからなのであろう。

やはり大学時代に得た最も大きなものは「仲間」なのだと今さらながら気付かせられた。

サラリーマンとしての終わりの時も見えてきた現在、改めて友人・仲間の大切さを思う。若い頃、定年を過ぎ年金生活に無事たどりつけたら何して遊ぼうか、何処へ旅しようか、誰と酒を飲み、どんな話をしようかなど、ぼんやり夢見た時期があった。しかし、定年という現実が近付いた今、同期会をやろうとしても、親の介護や葬儀や法事、家族のことやら仕事もいろいろ。皆のスケジュール調整は難しく、思い通りに会えるわけではない。さらには予期せぬ自身の病気、あるいは友人との永遠の別れなど、最悪の事態にも遭遇する。どこかで坊さんから聞いたが、生きることは「四苦八苦」との戦いとか。

放研創立六十周年が間近である。時代が変わり同じ「放送」でもラジオからテレビ（映像）へと様変わりをしたらしい。小生も卒業後二十年程はテレビ業界に首を突っ込んで生きて来たものの、今は、渋谷で若者に人気の「109MEN´S」というファッションの仕掛人。109-②店の総支配人をしている。

藤原先輩（八期）、吉田先輩（十七期）をはじめ多くの先輩方が後輩のために放送業界への就職支援活動をされているとお聞きしている。そんな行為を通じて、先輩と後輩・現役との交流の場が続いていることは、なんとも羨ましくすばらしいことと感じているが、業界を離れた小生にとっては全く縁遠い話になってしまった。OB会行事の中での作品発表会もあると聞くが、いまさら現役諸氏のお創りになった映像を拝見したところで、もはやそれを論じる見識や知識すら持ち合わせてはいないので、志輝くお若い方へのお役には立てない。とはいえOB会に名を留めることは、思い出連なる仲間意識や、忘れ去られる寂しさへの抵抗感によるものだろうか。

十年前にゴルフを再開した。仕事付き合いもあるし、楽しい遊びでもある。健康的で付き合いの範囲も広がる。ゴルフほど入れ込んだスポーツは他にはない。といって上達はせず、周りに迷惑を掛けずに済む程度の腕前か。体力は落ちる一方だが、多少の技術力でごまかしながらあと十年近くは楽しめるだろうか。

数年前から「水上会長を偲ぶゴルフコンペ」や「放研OB会ゴルフコンペ」に参加している。還暦を期に新しいお仲間を作るため「学員会埼玉支部ゴルフコンペ」「白門浦和支部ゴルフコンペ」にも毎年出席している。放研のゴルフコンペは大

先輩の皆さまばかりで現在はわれら十八期が最年少だが、毎回楽しいし、諸先輩のお元気さには驚かされる。学員会、白門会は初めてお会いする方ばかりではあるが、やはり大学の先輩・後輩の仲だからなのだろうか、楽しくお付き合いをさせて頂いている。「これからもみんなでワイワイ楽しく飲んだり、老体に鞭打って愉快にゴルフをやりましょうよ」というのが、定年間近の小生の近況である。

十九期は適当に集まっています。連絡をお待ちしています。

福田好朗（十九期）

放送研究会を卒業して四十年が経ちました。十九期は同期会を定期的に開くのではなく、前後の期を含めた会が不定期に、不規則に、適当に集まっています。これは、厳密な幹事が決まってなく、沢山の人を集める努力をしないためです。それでも大学時代の仲間は、細く、長く、とぎれとぎれに集まってきます。仲間は久しぶりに会っても、すぐに楽しく語り、飲むことができるのが財産です。これは、大学時代の四年間の時間を共有し、授業以外の同じなにかを目指したことによるものだと感じてます。

今、大学で教える立場になり、学生を見ていると、大学のサークル活動も、授業に対する態度も大幅に変わってきています。特にこの五年間は、学生のすべての行動や判断の基準が就職に有利か不利かになってきています。例えば、授業は実務的で実践的なものが学生に評価されていますので、学問の基礎となるものは、受講生が少なくなっています。サークル活動も、就職活動の時に役に立ちそうなサークルや授業の邪魔にならない緩やかなサークルが全盛です。○○研究会、○○学会などの名称のサークルは、野暮なサークルとなってきています。当然、サークル活動に学生時代の時間の大半をささげる学生はほとんど見られなくなってきています。まして、サークル活動を理由に留年する学生や、単位不足になる学生は、スポーツのレギュラー組を除いていなくなりました。

私のゼミは、それでも体育会やサークル所属経験者が多くいるゼミです。かれらは成績は良くないのですが、集中力とコミュニケーション能力、自己アピール力が平均的に高く、大学院へ進学した後に急速に伸びる場合があります。また、学部卒業でも、望んだ企業に就職しています。このような状況をみていると、入学した時から就職を意識して予備校生活を続けるより、大学という社会で自分の能力を開花させたらいいのにと思っています。

とはいえ、我々は大学時代に多くの時間をサークルに捧げ、単位の不足を心配し、出席の不足を誤魔化して卒業した世代ですので、四十年の時間を超えて、集まり、飲み、語ることができる財産をもっています。十九期（昭和四十六年卒業）は適当に集まっていますので、十九期前後の方で、当時放送研究会に在籍していて久しぶりに会ってみたいという人がいましたら連絡ください。都合に合わせて適宜あつまります。（E-mail アドレス　yf@hosei.ac.jp）

ホワイトボード

中央大学創立一二五周年募金

皆様のご協力のおかげで放研ＯＢ会の寄付総額が五〇万円を超えましたので、「銘板」に掲載されることになりました。

「銘板」は、多摩キャンパス東門モノレール口正面の「グリーンテラス3階エントランスホール」に設置されています。

ゴルフ部会・報告（於武蔵野ゴルフクラブ）

★第二十四回水上杯コンペ　〈平成二十二年九月九日〉
優勝／大高善靖（十一期）H0・二位／塩沢邦男（九期）H3・三位／谷井健（十七期）H20　参加17名

★第二十五回水上杯コンペ〈平成二十二年十一月十八日〉
優勝／河合昭次郎（十一期）H12・二位／若尾英樹（十二期）H14・三位／内山明雄（七期）H10　参加14名

★第二十六回水上杯コンペ　〈平成二十三年四月十四日〉
優勝／齋藤剛（十五期）H24・二位／及川信行（十二期）H14・三位／内山明雄（七期）H15　参加19名

編集後記

この度の東日本大震災におきまして被害をうけられた放研ＯＢの方、そして地域の皆様方、そのご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。今回の発刊にあたり、皆様より多数寄稿して頂き十三号を無事お届けする事が出来ました。又、昨年は会費の振り込み方法が変りましたにも関わらず大勢の方にお振り込みいただき、合わせてお礼申し上げます（継続して随時お受けしております）。これからもＯＢ会があってよかった、マイトークを楽しみに待っていましたと言って頂ける様努力いたしますので、個人でも卒業期単位でも皆様の情報、投稿をお待ちいたしております。

この度の震災で失われた貴重な命を思う時、改めて生きることの意味と尊さを問わずにはいられません。どうぞ皆様、ご自愛下さいますように。（T・S）

〈連絡先〉　ＯＢ会幹事長　斉藤　剛（十五期）
自宅（０４５）９６２−９６２２
携帯（０９０）８１７８−２２８４